

令和 5 年度

「運営に関する計画」

大阪市立長居小学校

令和 5 年 4 月

大阪市立長居小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【安心・安全な教育の実現について】**

- ・令和4年度小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と回答した児童の平均割合は93.3%であり、市平均よりも2.1%高かった。昨年度に比べ、肯定的な回答の割合がわずかに下がっている。
- ・令和4年度 学校評価アンケートにおける「学校のきまりを守っている」「ろうか・階段を安全に歩行している」に対して、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と回答した児童の平均割合はそれぞれ3%、4%上がっている。しかし、「チャイムを守っている」に対しては1%下がっている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上について】

- ・令和3年度小学校学力経年調査の国語における「読む」「書く」「聞く」「話す」の4領域の正答率にばらつきが見られ、定着に課題が見られた。そのため令和4年度の校内研究として、国語科における言語化能力の育成に取り組んだ結果、語彙の観点や読解力の観点において本校の実態と課題が浮き彫りとなった。
- ・令和4年度小学校学力経年調査における「国語の授業の内容はよく分かる」「算数の授業の内容はよく分かる」に対して、肯定的に回答した児童の割合は市平均を下回る結果となった。
- ・児童の体力の把握に努めるとともに、令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果をもとに「反復横とび」「50m走」の種目の全国平均以上をめざすことが必要である。

【学びを支える教育環境の充実について】

- ・学校教育を支える基盤的なツールとして、ICTを活用する必要がある。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1は、時間外勤務の上限を「月45時間」「年間360時間」としている。ゆとりの日を設定するなど、時間を意識できる取り組みを推進していく必要がある。

中期目標**【安心・安全な教育の実現】**

- ・令和7年度の調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と回答する児童の割合を全国平均以上にする。
(令和4年度 -9.4%)
- ・令和7年度の調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「自分には良いところがありますか」に対して、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と回答する児童の割合を全国平均以上にする。

(令和4年度 -6.6%、-8.1%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の調査において、全国学力・学習状況調査における平均正答率の対全国比を全国平均以上にする。（令和4年度 国語+3.4%、算数+2.8%、理科-1.3%）
- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の対全国比を全国平均以上にする。（令和4年度 男子-0.79、女子-0.03）

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において学習者用端末を毎日使用した学校の割合を100%で維持する。（令和4年度 100%）
- ・教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合において、「学校園における働き方改革推進プラン」の目標の達成を維持する。（令和4年度 達成）

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を75%以上にする。（令和4年度 80.2%）
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。（令和4年度 減少）
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。（令和4年度 増加）

学校園の年度目標

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を増加させるため、学校ルールや自己肯定感を意識することができる児童の育成を図ることで、児童の社会性を育む。そのための検証指標として、関係する調査を肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を43%以上にする。（令和4年度 42.4%）
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
（国語 4年+0.1、5年+1.6、6年-0.3）
（算数 4年-1.2、5年+1.2、6年+1.7）
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。（令和4年度 81.1%）

- ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。 （令和 4 年度 73.4%）
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 62%以上にする。 （令和 4 年度 61.8%）

学校園の年度目標

○児童の学力の定着と運動能力の向上を図る。そのための検証指標として、次の観点を重視する。

- ・ 年度末の学校評価児童アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」に対して、「そう思う」と答える児童の割合を前年度より向上する。 （令和 4 年度 91%）
- ・ 年度末の学校評価児童アンケートにおける健康・運動の項目に対して、「そう思う」と答える児童の割合を前年度より向上する。 （「外で遊んでいる」＋4%）
- ・ 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- ・ 小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

【ICTの活用に関する目標】

- ・ 授業日において学習者用端末を毎日使用した学校の割合を100%で維持する。 （令和 4 年度 100%）

【教職員の働き方改革に関する目標】

- ・ 年次有給休暇を 5 日以上取得する教職員の割合を100%で維持する。 （令和 4 年度 100%）
- ・ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を50%以上にする。 （令和 4 年度 43%）
- ・ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を75%以上にする。 （令和 4 年度 73%）

学校園の年度目標

○ICT環境を整え効率よく教材の準備や授業展開を進めることにより働き方改革にもつなげる。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立長居小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を75%以上にする。 ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>※前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握。</p> <p>※改善とは次の状態の場合をいう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 出席日数の増 2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。 <p>学校の年度目標</p> <p>○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を増加させるため、学校ルールや自己肯定感を意識することができる児童の育成を図ることで、児童の社会性を育む。そのための検証指標として、関係する調査を肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上する。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の社会性の向上をねらい、廊下・階段の安全な歩行ができるよう、環境整備や各種委員会との連携を図りながら、全職員で日常的に指導する。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全歩行週間を年2回以上実施し、安全な歩行について啓発を図る。 ・学校評価児童アンケートにおける「ろうか・階段を安全に歩いている」の項目で「そう思う」の割合を昨年度より上回る。 	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の児童理解やいじめアンケートの分析をもとに、いじめの解消に取り組む。 ・いじめについて考え、どんな理由があってもいじめはいけないという意識を高める。 ・学校で認知したいじめについて生活指導部会で情報を共有し、100%対応する。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内いじめアンケートで認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ・いじめについて考える機会を学期に1回以上設ける。 	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して人権課題に対する正しい知識と認識を深める授業実践により、児童の人権尊重に関わる道徳心を高める。 ・学年の実態に応じた自己肯定感・自己有用感を高めるための取り組みを行う。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価児童アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目で「そう思う」の割合を70%以上にする。 	
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち物への記名を徹底させ、落とし物について児童や家庭へ啓発することで、身のまわりの物を大切にしようとする意識を高める。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回以上持ち物への記名の確認を行い、落とし物について学級で考える。 ・学校評価児童アンケートで「身のまわりの物を大事に使ったり、使ったものをきちんと片づけていたりしている」の「そう思う」の回答の割合70%以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立長居小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 43%以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 62%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <p>○児童の学力の定着と運動能力の向上を図る。そのための検証指標として、次の観点を重視する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の学校評価児童アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」に対して、「そう思う」と回答する児童の割合を前年度より向上する。 ・年度末の学校評価児童アンケートにおける健康・運動の項目に対して、「そう思う」と回答する児童の割合を前年度より向上する。 ・小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。 ・小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びに向かう学習活動を通して、児童が自分の思いを伝える力と聞く力を育てていく。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートにおける「自分の考えを広げたり、深めたりすることができる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 84%にする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内研修を活性化し、教員の授業力の向上や若手教員の育成に努める。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教員が 1 回以上の研究授業を行い、学年等で研究会を設けて授業力の向上を図る。 学校評価アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」の項目について、「そう思う」と回答する児童の割合を 55%にする。 	
<p>取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体性をもって学習に取り組む児童を育てていく。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートにおける「授業のめあてを意識して学習に取り組んだ」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90%にする。 学校評価アンケートにおける「学習したことをふりかえっている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 85%にする。 	
<p>取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動に親しむ活動の内容や場作りを工夫し、自ら体力づくりに取り組む児童を育てていく。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 体を動かす取り組みを年 3 回、高学年児童と協働して設定・実施する。 学校アンケート「外であそんでいる」の項目について肯定的な回答をする児童を前年度より向上する。 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を定着化させる。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月の欠席状況、保健室の来室状況を基に適切な指導を行う。また、学校保健委員会を年に一回実施し、基本的な生活習慣についての取り組みを行う。 健康チェックカードの 8 月の結果よりも 1 月の結果でできたと回答する児童を増やす。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立長居小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標(小学校) 【ICTの活用に関する目標】 ・授業日において学習者用端末を毎日使用した学校の割合を100%で維持する。 【教職員の働き方改革に関する目標】 ・年次有給休暇を5日以上取得する教職員の割合を100%で維持する。 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を50%以上にする。 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を75%以上にする。 学校の年度目標 ○ICT環境を整え効率よく教材の準備や授業展開を進めることにより働き方改革にもつなげる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ・スクールライフノート（心の天気）やナビマ（デジタルドリル）などを教育活動に取り入れ、児童が学習者用端末を週3回以上使用できるようにする。	
指標 ・教職員へのアンケートで、児童が学習者用端末を週3回以上使用した学級の割合を80%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・ゆとりの日を月に1回設定する。	
指標 ・ゆとりの日の退勤時刻を18時に設定し、実行する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	